

『混ぜり合う時間』

2023.7.12

6人の子どもたちの半分は成人となり、現在一緒に住んでいるのはそのうちの4人。社会人は朝お弁当を渡して「いってらっしゃい」と言って、帰る時には私が寝てしまっています。小学校3年の末っ子も朝送り出してから、一緒にいるのは夕食から眠るまでのほんの僅かな時間です。

0才から3才まではほぼ私と24時間一緒だった6人。
3才から6才は幼稚園の間だけの離れた時間。



「ママ」「ママ」何万回話しかけてくれたのでしょうか。私が何万回、彼ら名前を呼んだのでしょうか。公園で、スーパーで、病院で、自転車の後ろで、私にずっと話しかけていた子どもたち。

あの時間は私の時間であり、彼らの時間。しかし、あれは、別々の時間ではなく、「混ぜり合った時間」だったのだと今気づきました。

今、彼らにほとんどその時間の記憶はないでしょう。今年20才になる次男に、「ごめん、小学校くらいまでのこと、ほとんど覚えてない」と先日も言われました。今は大人になった子どもたちから私に話しかけてくることはめったにありません。混ぜり合う時間はほんの僅かです。

私はそれでも、あの泣いたり笑ったりした濃密な時間が宝物です。記憶になくても必ず子どもたちの身体の奥にしまわれていると信じています。末っ子をまだ自転車の後ろに乗せながら、おしゃべりする時間を惜しんでいます。遠くに住む三男から「コンタクトレンズとプロテイン送って」だけの頼りを、待っています。長男がたまに家に居ると用もないのに、無理矢理話しかけています。

小さな子がママに「抱っこ」と走り寄っているのを羨ましく見ています。「抱っこ」と言われるのも実は短い間なのです。あんなにべったりとくっついた混ぜり合う時間はアッサリと終わってしまいます。懲りずに「だよねー」と6回目をまた感じています。